

パネル発表概要一覧

会場	番号	発表題目	発表概要	発表代表者	大学
2階 ホール	1	育児環境が充実した社会へー宇治市の育児支援制度をモデルにー	私達は宇治市において、育児期の母親への支援政策について研究しています。宇治市は、ワーク・ライフ・バランス(WLB)「仕事と生活の調和」を充実させるために、母親への支援政策に力を入れています。宇治市が行っている政策は、利用しやすく、かつ、WLBに効果的であるかどうかを、NPOや子育てサークルへのフィールドワークを通じ、分析を行っています。分析より、政策の問題点を発見し、解決・改善できるような政策案を、最終的に提案したいと考えています。	西野 友香子	立命館大学
	2	介護保険第二号被保険者の介護保険給付についてー若年性認知症患者と家族における利用課題ー	介護保険の第二号被保険者とは40～65歳の介護保険料を払っている国民である。第二号被保険者でありながらも、介護保険に定める特定疾病によって、介護保険の給付が必要となった場合に、既存の施設利用が自尊心を傷つけたりする現状がある。若年認知症を例に事例を紹介し、介護保険施設整備に対する施策提言を行う。	吉田 照美	龍谷大学院
	3	政策力教育におけるゲームの活用ー『京丹後市議会議員すごろく』の挑戦ー	昨今、度重なる行政や政治の不手際により市民の間でも公共政策に関する関心が高まっており、その学習方法には様々なものが考えられる。公共政策を学習する上で制作力をつけることは非常に重要なことであり、その制作力を高めるための教材として我々は「ゲーム」に注目しその有効性を明らかにする。	荒木 奏一朗	京都府立大学
	4	京都における交通問題の改善ー京都とフランス・リヨンと比較してー	京都における交通問題をどうすれば解決できるのか、また、住民がよりよい生活を送るためにはどのような政策が適しているのか、ということフランスのリヨンの事例を元に考えていく。渋滞緩和による環境配慮や渋滞からなる住民のストレスの解消といったことを、京都に今ある公共交通機関と新しいシステムの導入検討をふまえて、既にリヨンで渋滞緩和のために導入されている自転車共有システムを重点的に考えていきたい。	田中 友麻	立命館大学
	5	福井県若狭町における行政政策と民宿の関係性	本研究では若狭町内における民宿の実態とその経営者の方々の観光に対する考え方を明らかにしたいと考えている。まず観光政策を推進する行政側と民宿を経営する住民側に観光に対する考えの相違があることが問題であると捉えた。そこで福井県若狭町内の民宿に焦点を当てた。それは町内の宿泊施設の大半が民宿であり、宿泊を伴う観光が民宿で成り立っていると考えたからだ。夏の調査では町内の民宿の現状を把握するため、町内全体の約7割の民宿から有効な回答が得られた。その調査の結果を踏まえて今後は行政サイドと住民サイドの間の溝を少しでも埋めることができると考えている。	入宮 崇彰	立命館大学
	6	さらなる地域活性化に向けて	全国各地で食による町おこしが見られるようになってきているが、静岡県袋井市でも観光協会が中心となってたまごふわふわという、昔から地元で伝わる料理による地域活性化も取り組みが始められている。この発表ではその取り組みの様子や課題について考える。	山出 佳生	佛教大学
	7	公園における住民団体のあり方	現在、管理が行われていない、または不十分である公園が多く存在する。そこで公園管理をする住民団体にアンケート・インタビュー調査を行い、住民団体がどういった意識を持って公園を管理しているのか、管理をしていく上で発生する問題点や行政に対する要望などを調査する。これにより、現在の住民団体がさらに発展するための方法、公園管理における住民団体のあり方を考察する。	松尾 美奈実	立命館大学
	8	らくなん進都の将来～土地からまちづくりを考える～	「らくなん進都」と呼ばれる京都市南部地域は、企業誘致を中心とする地域開発を目指しているが、大きな成果は上がっていない。私たちは成果を挙げている他都市の成功事例や独自の土地利用のデータ等から、らくなん進都にある問題をピックアップする必要があると考えた。土地の流動性をはじめとする多くの問題がある「らくなん進都」のまちづくり戦略について考える。	野口 翔太	龍谷大学
	9	京都型自販機	自動販売機についての研究といえば、大抵のものは環境面でのことや技術面でのものが大半を占めています。そこで、研究入門フォーラムでマーケティング班となった私たちは「自動販売機」というもののマーケティングを明らかにしていき、自らその研究の成果として画期的な自動販売機マーケティングを確立しました。	黄麟善	立命館大学
	10	農産物直売所における消費者ニーズの把握と経営政策的課題ー大津市内の農産物直売所を通じてー	現在、農産物直売所は数少ない成長業種と言われ、全国で増加傾向にあり、直売所間の競争や経営主体の多様化などの変化が生じている。故に、農林水産省や都市農山漁村交流活性化機構などによる様々な調査が実施されてきたが、直売所利用者に対する調査は実施されていなかった。よって今発表では、平成22年9月3・4日の2日間に滋賀県大津市内の農産物直売所で実施したアンケート調査の結果から分析した直売所利用者の需要を基に、運営側および消費者にとってより最適な農産物直売所運営のあり方を提示しようと思う。	小寺 勇蔵	立命館大学
	11	地域のつながり創出拠点 地域プラットフォーム	全国で地域を活性化するために様々な取り組みがなされているが、なかなか普及しない・持続できないという問題点が挙げられる。それらを解決するためには、今まちづくりにどのような機能が求められているのかについて考察し、その解決策として「地域プラットフォーム」という住民自治の手法について述べる。すでに実践している事例を報告し、自分の地元の地域では地域プラットフォームは求められているのか、また実現は可能であるのかを考察する。	交久瀬 清香	佛教大学
	12	まちおこしにおける「成功」とはー岡山県津山市と兵庫県佐用町の取り組みを例にあげてー	近年、地域活性化が重要な課題になっている。わたしたちは、その中でもローカルフードを活用してまちおこしを行っている地域に着目した。岡山県津山市の「津山ホルモンうどん」と兵庫県佐用町の「ホルモン焼きうどん」の2つのまちおこしの取り組みを例にあげ、まちおこしにおける「成功」の形について探っていく。	狩野 仁哉	佛教大学
	13	京町家活用とコミュニティー京町家移住に伴うコミュニティの問題ー	現在、空き家の町家が各地で増加している。そのような中で、最近では町家に文化的価値を持つようになり、町家を活用する動きが盛んになっている。しかし、町家を活用したいというニーズがあるにも関わらず、移住者がそれほど増加していないのが現状である。その原因の1つとして考えられるコミュニティ形成に関する問題に焦点をあて、京都をフィールドとして考えることとする。企業や民間団体のコミュニティ形成に関する取り組みや、実際に移住希望者が持つ不安要素などを調査し、これらを照らし合わせ、コミュニティ形成に必要な対策を考えると共に、更なる課題を見つける。	甲平 伊織	立命館大学
	14	日韓の大学生が持つ「日韓の国民に対するイメージ」の研究	日本と韓国の大学生が持つ「互いの国民へのイメージ・印象」の研究。2000年ころから、日韓の距離は急速に縮まった。2002年の日韓共催ワールドカップの開催や、日本での『冬のソナタ』等の「韓流ブーム」も巻き起こった。しかし、日韓には韓国併合の歴史認識や戦後補償をめぐる対立が今もなお続いている。では、未来の日韓関係を担っていく若者たちは互いの国民に対してどんな印象を持っているのだろうか？ 日韓の大学生へのアンケート調査から考える。	原 和樹	立命館大学
	15	地域特産品を使ったイベントがもたらすPR効果ー和東町・和東茶を事例にー	和東町は茶畑の美しい景観に恵まれた日本茶の名産地であり、茶産業や景観を生かした体験型・交流型観光も近年行われているがあまり知られてはいない。また、高齢化・過疎化が進み、後継者問題などの多くの問題を抱えている。そこで、私たちは和東町の認知度向上と今までのPR手法の見直しが必要だと考えた。地域産品の和東茶を使った和東町の総合PR戦略としてイベントを行い、その効果を調査し、今後のPR手法のあり方を探求した。	野崎 瞭香	立命館大学
	16	都市景観と住民生活ーパリとリヨンの事例からー	フランスは文化財の保全、修復や景観保護政策において先進国とされ、パリを中心とする美しい町並みが有名である。しかし、都市景観政策による住民生活への弊害が目立ってくるようになってきた。本研究では、このような問題の発生、対処において都市内の社会的階層が重要な意味を持つことを明らかにし、都市における景観政策と住民の関係について現地の報告を交え考察する。	石山 大晃	立命館大学
	17	景観と日常的利便性の両立は可能かー広島県福山市鞆町を例にー	公共事業は、しばしば「走り出したら止まらない」と言われる。公共事業の多くは利用者の利便性向上に寄与するとされるが、一方で貴重な景観も失われてきた。近年、景観の利益を認める判決が相次ぎ、公共事業に待ったをかけるケースも出てきている。そのひとつが、広島県福山市鞆町の埋め立て架橋計画だ。埋め立て架橋計画は、鞆市街地や港の日常的利便性(交通事情や漁船の係留所不足)を向上させようというのだが、一方で景観や歴史的遺産の破壊が懸念されている。この発表では、埋め立て架橋計画と鞆市街地の現状を検証し、埋め立て架橋をせずに景観保全と日常的利便性の両立が可能かを述べたいと考えている。	中原 岳	立命館大学
	18	打ち水大作戦ー学内から都市へー	今日、地球温暖化が深刻になっている。国内外問わずたくさんの観光客が訪れる京都。この京都で地球温暖化防止のために何か行動すれば、たくさんの人に伝えることができる。京都でも所々でみられる打ち水なら京都らしさを出すことができる。そこで、実際に打ち水を学内で実施してみた。雨水を貯める苦勞、どのくらいの水が必要か、どのくらい地面温度を下げることができるか。ここで得た結果から、どのようにして打ち水を京都で実践していけばよいかをまとめる。	篠倉 香菜	京都女子大学
	19	観光都市京都の活性化ー中国人観光客の視点からー	京都市は日本でも有数の観光地であり、近年アジアからの観光客を中心に外国人観光客は増加傾向にある。2008年から日本で観光庁が設置され、外国人受け入れ環境の整備に向けて多くのアクションプランや計画が行われている。その中でも私たちは、近年大幅に増加傾向にある中国や韓国のアジア圏からの外国人観光客に注目した。調査から見えてきた観光客への主要な情報提供媒体であるメディアの観点からどういったアピール方法、情報提供の仕方が適切なのかを分析し、考察する。	大木 梓	立命館大学
	20	重要伝統的建造物群保存地区における観光振興のあり方ー伊根町と今井町を事例としてー	現在多くの重伝建地区において、住民の高齢化や後継者不足により伝統的家屋の保存が危ぶまれている。その保存のための財源確保や地域活性化による定住者の増加を図るのに観光産業が注目されている。調査対象の今井町と伊根町は歴史や環境こそ異なるものの、重伝建指定という多くの規制がある中で観光にスポットを当て、活性化を図っている。本研究では、文献・聞き取り調査の結果から現状を挙げ、その問題点を指摘する中で、重伝建地区における観光振興のあり方を提案する。	上原 翔太	立命館大学